

6年生 夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

令和6年9月25日(水)、北広島町内の6年生児童125名を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小学校は、次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で10年という節目を迎え、これまでも小学校6年生が学び、そして体験してきており、児童がとても楽しみにしている事業です。10年目となる今回も北海道から植松先生をお招きし、町内8小学校の6年生がKumahiraPark 北広島に集合しての講演会並びにロケット製作を実施しました。

講演会・ロケット製作の概要や、各小学校でのロケット発射の様子等について紹介します。

植松努先生講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松先生は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケットづくりを始められ、その後、幾多の困難を乗り越え、民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。子供達は植松先生の幼少期とロケット開発の話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学び、他では得ることができない多くの得難い「言葉」をいただきました。その一例を紹介します。



- 人の出会いには意味がある。 ○人は足りないからこそ助け合える。
- 奇跡を起こせるキーワード「ちがうはすてき！」
- 失敗はデータ。乗り越えたら力になる。
- 「失敗をしないために」を突き詰めると、何もできない、成長もできない、考えられなくなる。
- 自分の夢をどんどんしゃべろう。
- 未来はわからない。だから未来をあきらめる理由はない。
- 「どうせ無理」は自信と可能性を奪う最悪の言葉
- 伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。



講演を聞いた児童の感想

私は、植松さんの講演から「無理だ」と言ってあきらめることは、自分が自分にブレーキをかけてしまい、とてももったいないことだと思いました。だから「がんばれ」や「素敵だね」などのプラスの言葉かけを、自分にも周りの人にもできるよう意識していきたいです。



ぼくは、よく夢が変わるけど、一つに絞らなくてもいいと気づけました。そして、「絶対無理！」を口ぐせのように言うけれど、「別の考えをしてみたら？」と言われ、「絶対無理！」と言う前に別の考えをしてみたいと思いました。人の可能性をバカにしたり否定したりせずに「頑張れ！」と言えるようにしたいです。

他校の同級生と協力し合い、夢のロケット完成！

他の学校の友達と助け合ってロケットを作ることができました。もしも、作り方で分からないところを班のみんながそのままにしていたら、ロケットはうまく飛ばなかったかもしれません。これからも、困った時には、友達と協力して、どんなことも乗り越えていきたいです。



知っている人や友達もたくさんいたけれど、知らない人にも分からないところを「教えて。」と言うなど、自分から話しかけることができませんでした。そして、ロケットがうまく飛ぶように作ることができました。私の一番の目標だった「他校の6年生に話しかけて仲良くなる」ということが達成できたと思います。

ロケット製作・発射の様子



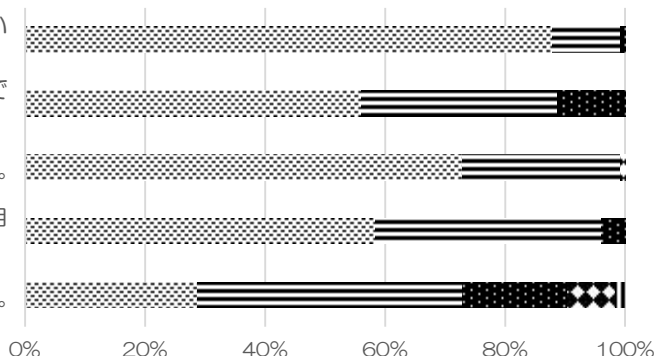
私の将来の夢は、和菓子職人になることです。「この夢が、未来の自分に届け！」という思いを乗せてロケットを飛ばしました。ロケットはうまく飛んだのでとてもうれしかったです。夢に近づけた感じがしました。これからも夢と希望が乗っているロケットを大切にしたいと思います。

ぼくは、ロケットを作っている時はそんなに飛ぶとは思ってなかったけれど、思ったよりも高く飛んでいったのでびっくりしました。パラシュートがどこに落ちるかわからず、あと少しのところでキャッチできませんでした。今度は、しっかり夢をもって飛ばし、キャッチしたいです。

児童のアンケート結果

6年生「夢プロ」ロケット講演会後のアンケート（参加児童）

- (1) 植松先生の講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった。
- (2) 同じ班の友達といっしょに、楽しくロケットを作ることができた。
- (3) ふるさと北広島町が好きである。
- (4) ふるさと北広島町を大切に思い、住んでいる人のために、自分にできることはしていきたいと思う。
- (5) 将来、北広島町で暮らしたいと思う。



※ たいへんあてはまる ■ すこしあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない ■ 未回答

参加した児童のアンケートでは、「(1) 講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」「(3) ふるさと北広島町が好きである」が100%肯定的な評価でした。それ以外のアンケート項目も一定の否定的な回答があるものの、肯定的な回答が高い割合となっています。本事業を通して、ふるさと北広島町への愛着心が育ってきているといえます。

本事業も10年目を迎え、プロジェクトの企画・運営にご尽力いただいた北広島町・北広島町教育委員会の皆様、また運営に携わっていただいた多くの皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

